

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際学術会議
	英	International Science Council (略称 ISC)
	団体 HP (URL)	https://council.science/ (日本学術会議が加盟していることの記載 (有) ・ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年 7 月、自然科学系の国際科学会議 (ICSU) 及び社会科学系の国際社会科学評議会 (ISSC) が統合され、国際学術会議 (ISC : International Science Council) が誕生。 ・ 統合の背景：世界の学術界を取り巻く環境として、①「解決すべき課題の地球規模化」(例：気候変動、生物多様性、海洋ゴミ、貧困)による学術界の国際的な連携の必要性と、②「学術分野間の統合(学際的アプローチ)」、更には「学術界と社会の連携(超学際的アプローチ)」の必要性 謂わば、「孤立した学術」から「連携する学術」への移行が必然となった。 ・ ISC は、145 の各国・地域を代表するアカデミー組織と、41 の各学問分野を代表する国際学術連合が加盟する最大の学術団体 ・ 日本学術会議は、1949 年の ICSU への加盟、2014 年の ISSC への加盟に引き続き、ISC に加盟。 ・ 国際機関・政府等との関わり：世界の学術界代表として、UNESCO 等の国連 5 機関、多国間政策協議 (UNFCCC, UNDRR, UN-Habitat, 2030Agenda 等) へ参画
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		<p><ISC の掲げるビジョンとミッション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビジョン： Advance science as a global good (世界の公共財としての科学の推進) ・ ミッション： The global voice for science (科学を代表する声となる) <ul style="list-style-type: none"> - 世界的な課題への学術研究の促進 - エビデンスに基づく公共政策・対話・行動の増進 - 科学における厳格性、創造性及び関連性の促進 - 科学の自由と責任の保護、遵守 <p><ISC が取り組む事業></p> <p>ダヤ・レディー現会長の理事会が任期中(2018 年 7 月～2021 年 10 月)に取り組む中の事業計画。『世界の公共財としての科学の発展』のテーマのもとに、以下の事業分野により構成される。</p>

様式第 2 (第12条関係)

	<table border="1"> <tr> <td>Action Plan 2019-2021</td> </tr> <tr> <td>・ 4つの領域での 12 のプロジェクト</td> </tr> <tr> <td>■ 領域 1 : 2030 Agenda SDG s</td> </tr> <tr> <td>■ 領域 2 : デジタル革命</td> </tr> <tr> <td>■ 領域 3 : 政策と公衆対話での科学</td> </tr> <tr> <td>■ 領域 4 : 科学と科学システムの進化</td> </tr> <tr> <td>・ 科学の自由と責任</td> </tr> <tr> <td>・ アウトリーチとエンゲージメント</td> </tr> <tr> <td>・ グローバルな地域活動</td> </tr> <tr> <td>・ 資金調達</td> </tr> <tr> <td>国際的な科学イニシアチブの主催/共催</td> </tr> <tr> <td>■ INGSA (政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク)</td> </tr> <tr> <td>■ 研究プログラム</td> </tr> <tr> <td>■ 科学委員会</td> </tr> <tr> <td>■ 国際データ機関</td> </tr> <tr> <td>■ 世界観測システム</td> </tr> <tr> <td>研究ファンディングのマネジメント (資金源はスウェーデン SIDA 他)</td> </tr> <tr> <td>■ T2S プログラム (社会科学系プロジェクト 12 件)</td> </tr> <tr> <td>■ LIRA2030 (アフリカ向け 28 件)</td> </tr> <tr> <td>国際的政策枠組や政府間ネットワークへの参画</td> </tr> <tr> <td>■ 2030 Agenda SDGs</td> </tr> <tr> <td>■ UNFCC</td> </tr> <tr> <td>■ 仙台防災フレームワーク</td> </tr> <tr> <td>■ 国連 New Urban Agenda</td> </tr> <tr> <td>■ 生物多様性および生態系多国間パネル (IPBES)</td> </tr> <tr> <td>■ リソース・パネル (IRP)</td> </tr> <tr> <td>■ 全地球観測システム (GEOSS)</td> </tr> <tr> <td>■ COVIDEA</td> </tr> <tr> <td>国際的な科学イベントへの参加、後援、共催</td> </tr> </table>	Action Plan 2019-2021	・ 4つの領域での 12 のプロジェクト	■ 領域 1 : 2030 Agenda SDG s	■ 領域 2 : デジタル革命	■ 領域 3 : 政策と公衆対話での科学	■ 領域 4 : 科学と科学システムの進化	・ 科学の自由と責任	・ アウトリーチとエンゲージメント	・ グローバルな地域活動	・ 資金調達	国際的な科学イニシアチブの主催/共催	■ INGSA (政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク)	■ 研究プログラム	■ 科学委員会	■ 国際データ機関	■ 世界観測システム	研究ファンディングのマネジメント (資金源はスウェーデン SIDA 他)	■ T2S プログラム (社会科学系プロジェクト 12 件)	■ LIRA2030 (アフリカ向け 28 件)	国際的政策枠組や政府間ネットワークへの参画	■ 2030 Agenda SDGs	■ UNFCC	■ 仙台防災フレームワーク	■ 国連 New Urban Agenda	■ 生物多様性および生態系多国間パネル (IPBES)	■ リソース・パネル (IRP)	■ 全地球観測システム (GEOSS)	■ COVIDEA	国際的な科学イベントへの参加、後援、共催
Action Plan 2019-2021																														
・ 4つの領域での 12 のプロジェクト																														
■ 領域 1 : 2030 Agenda SDG s																														
■ 領域 2 : デジタル革命																														
■ 領域 3 : 政策と公衆対話での科学																														
■ 領域 4 : 科学と科学システムの進化																														
・ 科学の自由と責任																														
・ アウトリーチとエンゲージメント																														
・ グローバルな地域活動																														
・ 資金調達																														
国際的な科学イニシアチブの主催/共催																														
■ INGSA (政府に対する科学的助言に関する国際ネットワーク)																														
■ 研究プログラム																														
■ 科学委員会																														
■ 国際データ機関																														
■ 世界観測システム																														
研究ファンディングのマネジメント (資金源はスウェーデン SIDA 他)																														
■ T2S プログラム (社会科学系プロジェクト 12 件)																														
■ LIRA2030 (アフリカ向け 28 件)																														
国際的政策枠組や政府間ネットワークへの参画																														
■ 2030 Agenda SDGs																														
■ UNFCC																														
■ 仙台防災フレームワーク																														
■ 国連 New Urban Agenda																														
■ 生物多様性および生態系多国間パネル (IPBES)																														
■ リソース・パネル (IRP)																														
■ 全地球観測システム (GEOSS)																														
■ COVIDEA																														
国際的な科学イベントへの参加、後援、共催																														
<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて</p>	<p>(1) 日本人役員等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1963 年 : 茅誠司会長(当時)が ICSU 副会長 ・ 1999-2002 年 : 吉川弘之会長(当時)が ICSU 会長 ・ 2009-2011 年 : 黒田玲子会員が日本人女性初の ICSU 副会長 ・ 2016-2018 年 : 巽和行連携会員が ICSU 常任理事 ・ 2012-2018 年 : 春日文子連携会員 (22 期副会長) が Policy Committees の C SPR (Committee on Scientific Planning 																													

様式第 2 (第12条関係)

	<p>and Review 科学評価計画委員会) 委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2015-2018 年：井野瀬久美恵副会長（23 期）が CFRS(Committee on Freedom and Responsibility in the Conduct of Science (科学研究における自由と責任に関する委員会)委員 ・ 2010-2018 年：齋藤安彦連携会員が ISSC 常任理事 2017-2019 年：植松光夫連携会員が ISC アジア太平洋委員会 (ISC-RCAP) 委員長 ・ 2019-2021 年：白波瀬佐和子会員が CFRS(Committee on Freedom and Responsibility in Science 科学の自由と責任に関する委員会)委員
<p>加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて</p>	<p>ISCは全世界の科学者を代表する団体であり、地球規模で取り組むべき課題に対して、〈科学者間での連携〉、〈科学のための政策提言〉、〈政策のための科学的提言〉、〈科学研究へのファンディング〉等で世界の科学界を主導する存在であることより、日本を代表して日本学術会議がISCに加盟することで、科学に関する取り決めや、政策提言など様々な国際的取り組みに直接関与することができるばかりでなく、先進国の科学者として関係するプロジェクト等において中心的な役割を果たすこともできる。</p> <p>以下は、24期ISC等分科会委員からの意見：</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center; background-color: #e0f2f1;">① 日学が ISC から得られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本の科学技術の国際的な認知の促進。日本の科学者・技術者が国際的な研究課題にイニシアティブを取る。日本のプレゼンス向上。 ● 世界の学術の動向を知り、国際的な協同体制に対応する。取り残されない。 ● グローバルな課題に対処していく際に求められる、多様な視点、必要な制度・政策上の対応などの指針を得る ● 日本学術会議と ISC で議論されている課題も共通しており、議論の広さや深さの観点から学ぶことが多い。 ● 学際的な研究の動向に関する情報を得ることで、国内での研究の発展に寄与。日本国内の情報を発信することで、学際的共同研究の機会が期待できる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #e0f2f1;">② 日学が ISC に貢献できること</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 災害防災科学・技術への寄与、環境保全課題への切り込み、里山・里海、欧米とは異なるアジア的視点に立つ科学技術。防災などのように日本が他の国と比べてより多くの実績を持っている学問分野で、アジア、 </div>

様式第 2 (第12条関係)

	<p>中南米などの災害多発地域に寄与。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然科学と人文・社会科学をともに含む日本学術会議の活動は、ISC の活動（たとえば Action Plan 2019-2021）などと響き合う点も多い。 ● ISC 組織の単位である国レベルの状況・情報は ISC の存立理由の根幹となる重要な位置づけにある。日学への ISC による期待は大きく、日学が貢献しうる可能性大。 ● 学術的、人的、および経済的貢献。組織運営に人的な貢献をすることで、ISC からの情報入手および日学の情報発信がスムーズ。
<p>その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）</p>	<p>科学者の倫理に関する ISC の基本方針について： <以下は、ISC 定款第 7 条の仮訳></p> <p>7. 科学における自由と責任の原則:科学の自由で責任ある実践は、科学の進歩と人間と環境の幸福の基本である。このような実践には、そのすべての側面において、科学者の移動、関連付け、表現、コミュニケーションの自由、および研究のためのデータ、情報、その他のリソースへの公平なアクセスが必要である。誠実さ、尊敬、公平性、信頼性、透明性を備えた科学的研究を実施および伝達し、その利益と起こりうる害を認識し、あらゆるレベルで責任を負う必要がある。</p> <p>科学の自由で責任ある実践を提唱するにあたり、ISC は科学とその利益へのアクセスの公平な機会を促進し、民族的出身、宗教、市民権、言語、政治的またはその他の意見、性別、性同一性、性的指向、障害、または年齢などの要因に基づく差別に反対する。</p>

2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

<p>総会、理事会の日本開催の予定について（招致等の予定も含め）</p>	<p>未定</p>
<p>日本人の役員立候補等の予定について</p>	<p>2021 年 10 月総会での理事会役員選挙に立候補の予定。</p>
<p>現在、検討中の日本からの提</p>	<p>未定</p>

様式第2 (第12条関係)

言や推進するプロジェクト等の動きについて	
----------------------	--

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第11条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	2018年(開催地:フランス)、2021年(開催地:オンライン)		
	理事会・役員会等開催状況	ISC Governing Board 2018年第1回~第2回(開催地:フランス) 2019年第3回~第5回(開催地:フランス, 北京) 2020年第6回(オンライン3月)、4月、5月、7月に継続審議、 第7回(オンライン9月)		
	各種委員会開催状況	ISC アジア太平洋地域委員会 2018年第25回(開催地:モンゴル) 2018年第26回(開催地:フィリピン) 2019年第27回(開催地:マレーシア) ISC 科学における自由と責任の委員会(CFRS) 2019年第1回(開催地:フランス) 2020年新型コロナウイルスの影響により、オンラインで随時開催		
	研究集会・会議等開催状況	世界社会科学フォーラム(WSSF) 2018年(開催地:福岡) 2021年(開催地:未定)		
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	2018年総会(開催地:フランス) 会長・副会長・他5名 2021年(開催地:オンライン) 副会長 上記他、ISC Governing Board 及び、ISC アジア太平洋地域委員会へ植松光夫連携会員が、ISC 科学における自由と責任の委員会に白波瀬佐和子連携会員が参加。			
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況(過去5年)	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	ICSU 理事	1016~2018	巽和行	(24期) 会員・ <u>連携</u>
	CSPR	2012~2018	春日文子	(23期) 会員・ <u>連携</u>
	CFRS	2015~2018	井野瀬久美恵	(23期) <u>会員</u> ・連携
	ISSC 理事	2010~2018	齋藤安彦	(24期) 会員・ <u>連携</u>
	ISC-RCAP 委員長	2018~2020	植松光夫	(24期) 会員・ <u>連携</u>
	CFRS	2019~2021	白波瀬佐和子	(24期) 会員・ <u>連携</u>
	~		() 期) 会員・連携	
出版物	1 定期的(年 1 回) 主な出版物名 年次報告書			
	2 不定期() 主な出版物名			

様式第2 (第12条関係)

活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載
(<https://council.science/publications>)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

(内規4条第3号) 国内委員会	委員会名	国際委員会 ISC 等分科会
	委員長名	武内和彦
	当期の活動状況	<p>(開催日時 主な審議事項等)</p> <p>2017年12月19日 第1回</p> <p>(1) 役員の選出について</p> <p>(2) ISC (International Science Council) の正式な和訳について</p> <p>(3) ISC 選挙委員会委員の投票について</p> <p>(4) その他</p> <p>2018年1月18日 第2回</p> <p>(1) 前回の議事録の確認について</p> <p>(2.1) IAP-R 事務局移転について (報告)</p> <p>(2.2) IAP-R 新規プロジェクト案について</p> <p>(2.3) IAP 防災共同声明の公表について</p> <p>2018年5月2日 第3回(メール審議)</p> <p>(1) 国際科学会議 (ICSU) の電子総会 (eGA) について</p> <p>2018年6月18日 第4回</p> <p>(1) 前回の議事録の確認について</p> <p>(2) 立候補者支援方針について</p> <p>(3) その他</p> <p>2018年9月26日 第5回</p> <p>(1) 前回の議事録の確認について</p> <p>(2) ISC についての今後の対応</p> <p>(3) IAP Joint Partnership Meeting 出張報告</p> <p>(4) その他</p> <p>2019年4月26日 第6回</p> <p>(1) 前回の議事概要の確認について</p> <p>(2) IAP 理事会等出張報告について</p> <p>(3) ISC への対応について</p> <p>(4) その他</p> <p>2019年10月18日 第7回</p>

様式第2 (第12条関係)

		<p>(1) 国際ユニオン幹部と日本学術会議の意見交換 (2) その他の分科会事項 (前回の議事概要の確認について、WSF2019 総会について)</p>
<p>内規第3 (国際学術団体の要件関係)</p>	<p>国際学術交流を目的とする非政府かつ非営利的団体である ① 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (https://council.science/cms/2011/10/ISC-Statutes-and-Rules-of-Procedure.pdf)</p>	
	<p>各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) ① 該当する 2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (https://council.science/about-us/our-members)</p>	
	<p>下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印) ① ア 個々の学術の専門分野における統一かつ世界的な組織を有するもの ② イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一かつ世界的な組織を有するもの ③ ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p>	
	<p>10 ヶ国を超える各国代表会員が加入している ① 該当する 2. 該当しない</p>	
	<p>加入国数及び主要な各国代表会員を 10 記載</p>	<p>(131 ヶ国) ・各国代表会員名/国名 National Academy of Sciences/United States British Academy /United Kingdom Académie des Sciences/France Deutsche Forschungsgemeinschaft (DFG)/Germany National Research Council of Canada/ Canada Consiglio Nazionale delle Ricerche/Italy Australian Academy of Science/Australia Royal Society of New Zealand/New Zealand China Association for Science and Technology (CAST) /China National Academy of Sciences of the Republic of Korea /Korea</p>

様式第2 (第12条関係)

		Republic of,
--	--	--------------